

保健体育 『カーリングのまち』 シラバス

北海道常呂高等学校

学年	2	単位数	1	授業形態	一斉			
教科書 (出版社)	なし		副教材等 (出版社)	なし				
学習目標	カーリングの専門的な知識や高度な技能の総合的な活用を目指した課題研究を通して、生涯を通じた豊かなカーリングライフの実現及びカーリングの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。							
学習方法	実習、体験、発表などの探求的な活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る。							
学習評価	評価の観点	評価の観点の趣旨						
	ア 知識・技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、歴史、文化的特性や現代の特徴、効果的な学習の仕方及び豊かなカーリングライフの設計の仕方を理解している。						
	イ 思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなカーリングライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。						
	ウ 主体的に学習に取り組む態度	カーリングの楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。						
評価方法	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
観点	観察	生徒との対話	ワークシート					
ア	○	○						
イ	○	○	○					
ウ	○							

学習計画

学期	単元	学習内容	評価の観点			評価規準	評価方法
			ア	イ	ウ		
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・カーリングに関する研究 ・オリジナルカーリング教科書作成 ・カーリングの指導方法と安全 	<p>「課題研究・実習」 指導者や管理者といった視点で、カーリングの歴史や基礎を学び、オリジナルカーリング教科書を作成する。資料の作成を通して、カーリングの本質を学ぶとともに、効果的な指導方法について学ぶ。</p> <p>(1) 豊かなカーリングライフを設計していくためには、各ライフステージ(生涯の各段階)やライフスタイル(生き方や暮らし方)に応じたスポーツの設計の仕方を理解できるようにする必要がある。各ライフステージにおけるカーリングの多様な楽しみ方、ライフスタイルに応じたカーリングとのかかわり方、カーリング振興のために施策と諸条件、カーリングと環境などを学ぶ。</p> <p>(2) カーリングを指導するためには、カーリングの指導法や参加者の健康・安全の確保の仕方を理解できるようにする必要がある。カーリングの一般的な指導法、参加動機に応じた指導法、健康の確保の仕方、参加者の安全の管理の仕方などを学ぶ。</p> <p>(3) カーリングの振興発展のため、組織的な活動、施設や用具の管理などを学ぶ。</p>	○	○	○	<p>(ア) カーリングの特性や魅力を深く味わえるよう主体的に課題に挑戦し、公正、協力、責任、参画などに対する意欲や規範や価値を尊重する意思を持つことができる。</p> <p>(イ) 自己に適した高度な技能の習得を目指して、科学的知識に基づく適切な練習を行うことや適切なトレーニングなどを取り入れて体力や技能を高めること、視聴覚機材などを用いた自己観察や視点を定めた他者観察を通して課題を明確にし、多様な練習方法の中から適切な解決策を見つけ、課題の程度に応じて、計画を立て取り組むことができる。</p> <p>(ウ) カーリングの基本的な動作をすることができ、適格な戦術をとることができる。</p> <p>(エ) カーリングの歴史・文化的特性と現代の特徴、効果的な学習の仕方、豊かなカーリングライフの設計の仕方、指導法と安全の確保などについて科学的、社会的、文化的な側面からとらえた教養を身に付けている。また、安全を確保した上で、カーリングを実践するための知識やカーリングを客観的に広い視野でとらえることができる。</p>	①②③
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なカーリングの指導法の研究と指導実践 	<p>「指導法研究・指導実践」 地域クラブ協力のもと、指導法を研究し、小中学校での授業実践を効果的に行う。カーリングの効果的な指導法を安全などに留意しながら学び、充実した指導実践を行う。</p>					